

瀋陽駐在員事務所



< 中国・ロシア国境の町・・・黒竜江省綏芬河市 >

黒竜江省綏芬河（すいふんが）市はウラジオストクまで 160km、ロシアとの国境に面した人口約 20 万人の都市です。綏芬河市ではロシア人は市内に限りノービザで 15 日間の滞在が認められているほか、中国から持ち帰る携行貨物は一人 50kg まで免税、市内でのルーブル現金での商品売買が認められるなどの特例措置が取られており、市内にはロシア人の観光客（買い物客）やロシア語の看板が至る所で見られます。

綏芬河市では、中国東北部の製品をウラジオストク港経由で中国の他地域や海外へ輸送するための保税区内鉄道引込線や保税工場の整備などを行っています。このルートは日本にとっても輸送時間などで大きなメリットもありますが、現状では帰路日本からの積荷がなく結果的に輸送コストが倍増するなど大きな課題も存在します。

一方で中国（特に黒竜江省、吉林省）側では、大連とは別の港湾輸送拠点として、ウラジオストク港に大きく注目しています。今後国境を跨いだ物流が活発化することでロシア側にどのようなメリットがもたらされるのか注目していきたいと思います。

南 敏律



ユジノサハリンスク駐在員事務所

[サハリン最南端、クリリオン岬秘境の旅]



クリリオン岬



クリリオンから見た宗谷岬

日本の最北端、宗谷岬から 43 km 北に対峙するサハリン最南端のクリリオン岬を見た話は良く聞きますが、サハリン在住でクリリオン岬から宗谷岬を見た日本人は殆ど居ないと思います。今回、ロシア人の友人から誘われ、日本人 3 名とロシア人 7 名で秘境の地、クリリオンを目指しました。ユジノサハリンスク市内を朝 9 時に出発し、地図上には全く載っていない泥道、川道など、道無き道を突き進み、果てしなく続く海岸通りを走りきり、8 時間掛けて辿り着いた終着点。ここクリリオンはオホーツク海と日本海の海流が交わり、天気が良くても霧（もや）がかかり、いつもは微かにしか見えない宗谷岬。この日は好天に恵まれ、宗谷岬も利尻富士もしっかり見ることが出来ました。

夜、高台から宗谷を望むと稚内市街地の明かりが見えました。こんな近くに我が故郷、北海道があるとは、感慨深いものがあり、その余韻に浸ってしまいました。最近はこの岬間を橋で結ぼうと言う夢のような構想も良く聞かれます。実際にこの地に立ち、この近さを肉眼で見ると、夢が実現する日も近いように感じてしまいます。

三上 訓人

ウラジオストク駐在員事務所

シベリア鉄道について



今回は、ロシア国内を東西に横断する世界一長い鉄道であるシベリア鉄道について紹介します。モスクワ～ウラジオストク間の9,297 kmを指すことが多いと思いますが、正確にいうとロシア中南部のチェリャビンスク州チェリャビンスク～ウラジオストク間の7,416 kmを指します。日本列島の3倍以上の長さである9,297 kmの距離をウラジオストクからモスクワまで約7日間かけて旅客や貨物を輸送しています。

シベリアに鉄道を建設する計画は1850年代から始まり、様々な紆余曲折を経ましたが、1891年にアレクサンドル3世がニコライ皇太子に鉄道建設の勅諭を与えたことから、建設が開始し、東の終点であるウラジオストク～ハバロフスク間のウスリー鉄道から建設され、1904年によりやく全線が開通しました。ウラジオストクが閉鎖都市であった期間は、外国人が立ち入ることが出来ず、外国人乗客はシベリア鉄道全線を利用することができず、モスクワ～ハバロフスク間の乗車に限定されていました。

現在も多くの旅客を惹きつけるだけでなく、貨物輸送においても重要な路線となっており、沢山の乗客や貨物を運び続けています。全線を乗車する方もいれば、一部乗車し別の交通手段を利用する方もいるなど、楽しみ方は様々なようです。

伊藤 清平

カシコン銀行

タイからも近い、インドの魅力



タージマハル(アグラ)

先日インドへ行ってきました。インドはミャンマーとバングラデシュを挟み、タイと接しています。日本の約9倍の国土を有し、人口は約10倍、12億人ほどです。一人当たり名目GDPは約1,500米ドル(日本の約1/26)ですが、人口が多いために、GDP総額は世界10位(1位米国、2位中国、3位日本)という水準です。また、国連によれば西暦2100年には約16億人という世界最大の人口を有するという予測があり、人口のみで測ることは出来ないものの、世界の消費市場としての役割を果たしていく可能性が高い地域と考えられています。

今回は首都デリー、世界遺産タージマハルのあるアグラ、ジャイプールと北インドを視察してきました。個人的な印象でしかありませんが、デリー(ニューデリー)はインフラもしっかり整備された近代都市であるものの、その他の地域はあーまだまだかなという感覚です。これだけ広大な国でありながら、ここまで渋滞するかというほどの混みようで、ジャイプール・デリー間は車で約8時間(約260km)ほどかかりました。ごみが散乱し、アスファルトも無いような地域もありましたが、何よりも人が多い。これに尽きます。これらの人々の所得が向上したらと思うと底が知れません。インド市場への足掛かりとしてもタイ進出をご検討されてはいかがでしょうか。

伊藤 彰浩



アンベール城(ジャイプール)